

縁コロジ

発行：地球にイイコトやってる会
作成・編集：川北 辰実

早いもので年が明けたかと思ったらもう3月、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。つい最近まで「今、インフルエンザがはやってますから気をつけてください。」と、毎日のようにラジオ等で言っていたのですが、私は「気合い入れてたら大丈夫。風邪ひく奴は気合いがたらんや。」と、常々言っていました...が。

実は私も1月から2月にかけて風邪をひいてしまい、熱がでたのもあって一週間くらいは、だるくて何もする気になれず、ボーッとしていました。その前後10日間くらいは、せきがひどく、これまた何もやる気になれず、仕事にも身が入らず会報も今頃になってしまいました。

(単なる言い訳?!)

さて、すでにご存じのように、1月17日に、阪神大震災が起きました。いろいろな活動をしている方もみえると思います。自宅である津でも、震度4の中震でした。実は私はおめでたいのかなんとか熱睡していて知らなかったのですが、朝、ラジオを聞いて驚きました。その後、悲惨な状況が次々と伝えられ、自分も何かできないかと思いつつ、いろんな活動をしている内容が書かれたFAXが流れてきたので、それを別の所へ流したことで、義援金を送ったことくらいで、現地でボランティアをされてる方々には、頭が下がりますという思いです。一時は、自分の無力さに情けなさを感じましたが、今は、ある意味で開き直っています。

震災の報道を観たり聞いたりしていて、なぜか気になったのは、奥尻島や普賢岳の人達はどうしているのかなぁ、ということでした。何か大きなことが起きると、報道関係はそれ一色になります。それもよく似た視点からのものばかりに。そうするとみんなの目もそこに集中し、当然、援助物資や義援金、そして人もそこに集中します。しかし、だからといって、時は止まりません。平行して同じ時間に、世界のどこかでは、飢えに苦しんでいる人達がいます。戦争もしています。何か疑問を感じるのは、私だけでしょうか。

今回の震災では、村山パッシングはじめ、行

政や国側の対応に非難が殺到していますが、私達はその人達を責めることができるでしょうか。私が、その人達の立場だったら、適切な対応ができたかどうか疑問です。実際、そういう立場でないのだから話にならない、といえそうですが、もしかたが、じゃあ、普段から自分の仕事に、自分の全行動に責任を持ってやっていたかといえ、「はい。」とはいえません。

今までは、どんな問題でも解決方法はほとんど対処療法でした。病気になれば、なぜ病気になったのか考えず、出てきた症状に対して薬を使う。その症状については抑える事ができるがまた、違う症状が現れ、またその症状だけを診る。だんだん薬も強くなり、肝心の自己治癒力は低下していく。症状は悪ではなく、良くなるための気づきの信号。素直に受け止め、自分のライフスタイルの何が間違っていたのか、この事で、学ぶべき事は何かをしっかりとみつめる事こそ大切ではないかと思えます。これはなにも病気に限った事ではないと思えます。

地震対策。対策という視点でみている以上、結局同じ繰り返し。地球も生きています。生きていれば、くしゃみをする事もあるでしょう。その時、野生の動物達のように、私達の波動と地球の波動が一致していれば、微妙な変化も感じることができるのではないのでしょうか。そうなるには、もっと自然と触れ合う。自然のリズムで生活する。そして、なるべく地元でとれた旬のもので農薬の使っていないものを食べ、添加物等の人工的なものはなるべく食べない。

そして、人に流されず、世間に流されず、習慣に流されず、大きな自然の流れには逆らわず、自分は今、何をしているのか、何をしようとしているのか、一人一人が意志を持って行動する。なぜ、それをするのか、本当に必要なのか、ちゃんと考える。そして、過ぎたことにくよくよせず前向きに、目標は必要ですが、どうなるかわからない先のことを思い悩まない。

『自然と共に生きる』『今、その時を悔いなく生きる。』という事。これがこの震災で私が強く感じた事でした。

インフォメーション

オーケストラ指揮法と価値観の転換

“自分が変わったとき、メンバーが変わり、至高のハーモニーが生まれた...”

指揮者・高木善之氏の体験をもとに価値観の転換について話して頂きます。

講師：高木善之氏 ネットワーク『地球村』代表
日時：4月2日(日)午後1時40分～4時20分
場所：愛知芸術文化センター アートスペースA(12F)
会費：1,500円(事前に申し込み必要)

問い合わせ：名古屋地球環境を考える会 代表 戸田真二

☎465 名古屋市名東区本郷2-77-402

Tel・Fax 052-777-9760

イザッという時の為の応急手当講習会

一度体験しておく、家庭や職場での災害、事故等の緊急時に、きっと役立つことと

思います。無事終了した方は、「普通救命講習終了証」が発行されます。

日時：4月19日(水) 18:30～21:30
場所：四日市市消防本部 2階防災センター
参加費：無料

主催：四日市木鶏クラブ 問い合わせ：地球にイイコトやってる会

創刊号発行後、予想以上に応援や励ましのお手紙やおはがきをいただきましてありがとうございます。また、早々に切手や振替等で年会費までいただきましてありがとうございます。驚いたと同時にたいへん感激しています。にもかかわらず、第2号の発行が大変遅れてしまい申し訳ありません。

発行を続けていくには、物理的な時間の余裕も当然必要ですが、書くということにおいては精神的な余裕がもっとも必要だということを痛感しました。今現在の私のレベルで続けていくには、少しいい加減ですが、とりあえずこの一年間は、何日発行ということを決めずに、ひと月一回は発行できるように、95年12月31日の時点で12号まで出ているようにしようと思いますので、暖かくご支援いただければ幸いです。

また、み～んなが参加できる参加型の会報にしていきたいので、提案の場として、ストレス発散の場としてドンドン利用してください。お手紙いただく場合、会報に掲載してもいいものかどうか、分かるようにしていただけると幸いです。

〒519-01 三重県亀山市榑世町字山田1020-7 ☎05958-3-1690(カワキタエクスプレス内) Fax05958-3-0665

郵便振替口座番号：00830-9-90195 口座名：地球にイイコトやってる会

年間購読料：自由価格

推薦図書

☆マインド・チャラット天孫（たま出版、田村 駿禮著、2,000円）

ダイヤモンドに何の興味もなかった、どちらかというと嫌いだった著者が友人の熱心な勧めでダイヤモンドの輝きの優劣が、一目で見分けることができる器具を販売することになり、その後予想もしなかった劇的な運命が...

最近話題のサイババに何度も会い、物質化したものも多数所有する著者が、ダイヤモンドに導かれていく霊的な旅の様子を綴った体験記。たいへん読みやすく、著者自身の心の動きが読む側にもピンピン伝わってきます。

☆理性のゆらぎ(1,700円)、アガ스티アの葉(1,800円)、真実のサイババ(1,600円)

(いずれも、三五館、青山 圭秀著)

サイババブーム(?)の火付け役になった本。理学博士・医学博士である著者が現代科学ではタブーとされている神秘的現象を科学者の視点でとらえながら、科学の本質、生命の本質とは何かを探っていく体験を中心に書かれた本。「理性のゆらぎ」はサイババのことを中心にインドの伝承医学アーユルヴェーダ、占星術について、「アガ스티アの葉」はアーユルヴェーダ、占星術、アガ스티アの葉について、「真実のサイババ」はサイババとその教えについて書かれています。私たちの運命はすでに決まっているのか、それとも自由意志があるのか、はたまた私たちも神の化身なのか、答えは私たちの内にあるのかも...

☆聖なる予言（角川書店、ジェームズ・レッドフィールド著、1,800円）

南米ペルーの森林で古代文書が発見された。そこには人生の意義に触れた深遠な知恵が記されているという。それは、いま、人類の意識が変革されるべき時であることを告げていた...

九つの知恵が書かれている写本を捜す旅にでた主人公の自己発見(内面的な気づき)の過程を描いた冒険小説。最初、自費出版で出した本が口コミで拡がり、ついにアメリカで大ベストセラーに。そして今、日本でも...

自分にも思い当たるところが多くあり、フィクションとは思えませんでした。

☆地球の秘密（地球環境平和財団 03-5442-3161、坪田 愛華著、880円<送料別>）

宿題の環境問題のテーマを、12才の女の子が得意の漫画で描いた分かりやすい本。地球の精アース君が、小学6年生の留美と英一に、地球の誕生と歴史から始まり、自然界のしくみが、大きな流れの中でバランスを保ちながら、すべてが共生している様子を説明しながら、病んでいる現在の地球の現状を教えて行きます。現状を知った留美と英一が自分たちでできることから始めて行こうと、やる気になった時、アース君は「地球の秘密」という本を残して消えます。

そして、この本を描き上げた数時間後、突然、愛華ちゃんは脳内出血で倒れ、翌日その短い生涯を閉じました。まさに愛華ちゃん自身が、アース君そのものになったのです。この運命的なエピソードと本の内容を各報道機関が報道。世界中に感動の輪が広がっています。

◇ 創刊号で推薦図書として紹介した本の、著者、値段が書いてありませんでしたので、もう一度紹介させていただきます。

☆人間の研究(1,350円)、続・人間の研究、完結・人間の研究(1,300円、PHP研究所、船井幸雄著)

☆B A S H A R(2,270円)、B A S H A R 2、B A S H A R 3(1,950円)（バッシュール、ヴォイス社）

☆自然流「せっけん」読本（農文協、森田光徳著、1,200円）

私の見た神戸

2月10日夜出発2月11日午前1時30分、神戸元気村着。バウさん（山田和尚氏）ら元気村の皆さんが、迎えてくださいました。

荷物を降ろした後、暖かいお茶をいただきながらバウさん達のお話をいろいろ伺いました。

「元気村は、被災者の皆さんに自らが元気になり神戸の復興へひろげてゆくお手伝いをしているのです。今できる事をする。自分だけの頭で考えないフレキシブルに受け入れる。などなど、ネットワーク情報を、どんどん利用する。」

神戸の人達との会話を聞かせていただきました。
.....車内泊.....

環状線を大塚で降り2号線で神戸灘区へ、交通規制の看板があり、パトカーと警官が道路にいたがフリーパスであった。西宮付近で屋根のブルーシートが所々にみられたが、芦屋付近からは東側に倒壊家屋が多く、進むにつれて西側へと移っていった。東灘区より道路の両側に倒壊家屋が、いたるところでみられ歩道をふさいでいる所もある。

午前7時、御影公会堂入り口ホール横に、NTT無料電話が設置されていた。被災者の方々がストーブを囲みながら談笑し、食パンを焼いていた。ボランティアと被災者の人達がお湯、パンなどの配布をしていた。外では、炊き出しが始まっており、被災者の方が暖かい朝食をとっていた。当日は祭日だったのでたくさんのボランティアがきていた。高校生ボランティアは、ローラー作戦（各戸の要望聞き取り調査）を百数十名で展開すべく出発した。

この元気村では、ボランティアは保険に加入するので、本部にて登録を行ってから活動を開始する。ボランティアは、自主的に仕事を見つけて行い、人手が足りない場合は、声を掛けると空いている人が手伝う。炊き出し、野菜の仕分け、物資運搬等、仕事はたくさんあるのだが、人が多く、仕事を見つけるのにもひと苦労する場面もある。

この日は、医師による無料診断、無料散髪、野菜、衣類、玩具、畳等の配布があった。また、音楽や落語などの娯楽も行っていた。緊急物資の搬入もどんどんされていた。ボランティアの人達も、次から次へと登録されていた。

目を石屋川公園の周りに移してみると、隣のボーリング場の入り口付近は、壊滅的に崩れ落ちており建物の危うさと地震の大きさを思わせる。そこから少し奥をみると崩壊された家屋が至る所にみられる

。一階部分が潰れて車の一部分がのぞいていたり、屋根だけが崩壊していたり、瓦礫の山となっている家、傾き道路をふさいでいる家、壁が今にも崩れそうになっている所等、数え上げればきりが無い状態です。この状態の中からどのように逃げ出したのだろうと思わずにはいられなかった。

ここから30分位歩いた所に六甲小学校がある。避難所として多くの人が生活しており、テント、教室、廊下と生活のスペースをそれぞれが確保されており発砲スチロール板で区切り、それぞれの荷物が置いてあった。ここでもグラウンドでは、炊き出しなど多くのボランティアの人達や被災者の方が活動していた。各所に、求人広告、被災者名簿、捜し人の掲示が張られ、まだ見つからない人も多くいるようだった。お昼に、炊き出しを少しお手伝いし「おかわりいかがですか。」の声に、嬉しそうに「ありがとう。」と、暖かい食べ物にたいへん喜ばれた。水道は出ていたが、東京水道局の給水車が水を運んでいた。

石屋川公園から小学校までの状況は、古い家屋は壊滅、比較的新しい建物は、一見なんの被害もないようにみえた。道路は、断層と割れがあちらこちらにみられた。2極端に分かれたようだ。現地はさながら、巨大怪獣がおおあばれした後のようで、とても言葉では言い表せない。この地域の約2/3程度の家が、倒壊していた。私の見た限りでは...。倒壊した家から荷物を運ぶ人、傾いた家をジャッキで直す家族、倒壊を免れた家の整理をする人々と、それぞれに懸命に努力していた。今は、道路復旧が最優先され、至る所で工事中だった。水道はまだまだのようで、公会堂の前では消火栓の水をペットボトルに汲む姿が見られた。また、道路の破損した水道管より水を汲む姿も見られた。

全国各地からの救援物資は、公園内に並べられ、自分に必要なものを各自が選択していた。食事は、ボランティアが用意したパン、ジュース、牛乳、炊き出しを、順序よく並んでもらっていた。朝夕はかなり寒いので、並んでいるだけでも大変である。雨が降ってきたらどうしようもないな、と感じた。夜の寒さを凌ぐのも、さぞ大変だろう。

帰路につきながら、
「寒いから電気毛布を配ろう。」と言った若者と、
「そんなものいらない。ペットボトルにお湯を入れて、湯たんぽにすればいい。」と言ったバウさんの言葉が、なぜか思い出された。

〒510-12 三重郡菰野町菰野2065-11 後藤一幸